



新規受託項目

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別なご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

この度、下記項目につきまして、検査の受託を開始いたしますのでご案内申し上げます。

謹白



項目名

【血液学的検査】

- プロテインS 活性 (依頼コード No.12961)
- プロテインC 抗原 (依頼コード No.7491)
- 第XⅢ因子活性 (依頼コード No.3416)

受託開始日 2017年4月1日(土) 受付分より

次ページに続きます

株式会社 **ビー・エム・エル**

本社：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-21-3

総合研究所：〒350-1101 埼玉県川越市の場1361-1

☎ 049(232)3131 FAX 049(232)3132

検査項目検索用
アプリ B-Book



電子カルテはビー・エム・エル



● プロテインS活性

既存項目のプロテインS抗原(遊離型抗原量)に加え、プロテインS活性も受託開始いたします。

プロテインSは主に肝臓で産生される分子量約80,000のビタミンK依存性の1本鎖糖蛋白質で、活性化プロテインCが第V及び第Ⅷ因子を不活化する際に、コファクターとして働く抗凝固物質です。プロテインSの先天性欠損症においては抗凝固能の低下により血栓傾向を生じます。加えて、後天性にも肝障害、糖尿病、SLE、ネフローゼ症候群、妊娠などの各疾患、経口抗凝血薬、経口避妊薬などの薬剤投与時にも低下をきたし、これらの疾患重症度の解析、薬剤至適投与量のモニター、血栓症発症の予知などを目的として測定されます。

特に日本人に多いとされる先天性プロテインS欠損症においては、量的欠損と質的欠損があり、これらの鑑別には、抗原量と活性の両方を測定する必要があります。

受託要領

依頼コードNo.	12961
検査項目名	プロテインS活性
統一コード	2B710-0000-022-311
検体必要量	血漿 0.4mL
容器	B-11→S-1
検体の保存方法	凍結
所要日数	2～5
検査方法	PT凝固時間法
基準値	63.5～149.0
単位	%
報告範囲	10.0以下～最終値
報告桁数	小数第1位
検査実施料/判断料	170点/125点(血液学的検査)

【検査方法の参考文献】

藤岡 貴：医学と薬学 73, 621-626, 2016.

● プロテインC抗原

既存項目のプロテインC活性に加え、プロテインC抗原も受託開始いたします。

プロテインCはビタミンKの存在下に肝臓で合成される分子量62,000の糖蛋白です。血管内にトロンビンが生成されると、トロンビンは内皮細胞のトロンボモジュリンと結合しプロテインCを活性化します。活性化プロテインCはプロテインSを補酵素蛋白として内皮細胞や血小板に結合し、活性化第V因子や活性化第Ⅷ因子を特異的に失活させる血液凝固を制御する重要な因子です。

プロテインC欠損症には量的欠損と質的欠損があり、これらの鑑別には、抗原量と活性の両方を測定する必要があります。

受託要領

依頼コードNo.	7491
検査項目名	プロテインC抗原
統一コード	2B700-0000-022-062
検体必要量	血漿 0.3mL
容器	B-11→S-1
検体の保存方法	凍結
所要日数	2～5
検査方法	ラテックス凝集法
基準値	70～150
単位	%
報告範囲	5以下～最終値
報告桁数	整数
検査実施料/判断料	247点/125点(血液学的検査)

【検査方法の参考文献】

有村国明, 他: 臨床検査機器・試薬 15, 159-165, 1992.

● 第XⅢ因子活性

既存項目の第XⅢ因子抗原に加え、第XⅢ因子活性も受託開始いたします。

第XⅢ因子はフィブリン安定化因子とも呼ばれ、安定なフィブリン塊を形成する作用を有しています。また、フィブリン以外のフィブロネクチン、コラーゲン、プラスミンインヒビター(アンチプラスミン)等にも作用するため止血、血栓、創傷治癒などに大きな影響を及ぼしており、第XⅢ因子製剤による治療時の経過観察などに有用です。

また、自己免疫性出血病XⅢ/13(AHXⅢ/13)は指定難病ですが、診断には抗原量と活性の両方の測定が必要となります。

受託要領

依頼コードNo.	3416
検査項目名	第XⅢ因子活性
統一コード	2B440-0000-022-315
検体必要量	血漿 0.4mL
容器	B-11→S-1
検体の保存方法	凍結
所要日数	2～5
検査方法	合成基質法
基準値	70～140
単位	%
報告範囲	3以下～最終値
報告桁数	整数
検査実施料/判断料	229点/125点(血液学的検査)

【検査方法の参考文献】

Fickenscher, K. et al.: Thromb. Haemost 65, 535-540, 1991.